

# 産地パワーアップ事業の取組事例

(北海道)

## 取組の概要

取組の概要 : 生産工程の効率化と良品質生産による販売額の増加  
計画作成主体 : 中札内村地域担い手育成総合支援協議会  
対象品目 : 馬鈴しょ  
産地面積 : 馬鈴しょ (産地面積: 900ha)  
主な取組主体 : 中札内村種子馬鈴薯耕作者協議会  
成果目標 : 販売額の10%以上の増加(10aあたり)  
助成金の活用 : 生産支援事業(馬鈴薯植付機)状況

## ポイント

全自動ポテトカッティングプランターの導入による植付作業の効率化と適期は種、自動操舵システムの導入による作業精度の向上により、健全良質な種馬鈴しょの供給を通じて産地全体の品質向上と収量増加が図られ、販売額12.6%以上(10aあたり)の増加を実現。

## 地区の概要



## 産地の現状と目標

現状:H27年度

作付面積:844.3ha  
(種馬鈴しょ面積:101ha)  
販売額:77,660円/10a

目標:H30年度

作付面積:900ha  
(種馬鈴しょ面積:110ha)  
販売額:87,456円/10a



## 推進体制

「中札内村種子馬鈴薯耕作者協議会(生産者17戸)」を中心に、地域の関係者(農業者、JA、農業改良普及センター、中札内村)の役割分担を明確にし、連携協力して取組を推進。

## 地域における独自の取組

### 主な取組

全自動ポテトカッティングプランターの導入にあたり、農業試験場の試験成果をもとに、十勝農協連、機械・農薬メーカー等と連携し効果的・効率的な運用方法について検討。

シストセンチュウ抵抗性品種への転換により、澱粉原料用馬鈴しょの安定生産に取り組んでいる。

## 事業効果

複数作業を一工程で実施可能な全自動ポテトカッティングプランター(切断刃消毒装置付き)を導入し、作業効率の向上と適期植付けにより、健全良質な種馬鈴しょを生産。

あわせて、自動操舵システムの導入により、斉一で高品質な種子が生産できるだけでなく、女性や若手後継者によるオペレーションが可能。

また、シストセンチュウ抵抗性品種を導入し、良質な種馬鈴しょの安定生産と生産性の向上により、産地全体の所得向上と販売強化を実現。

### ~ 馬鈴薯の販売額(10aあたり) ~

